

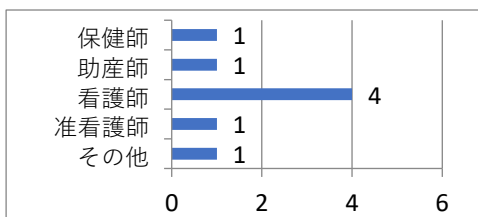
6. 新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修

研修名	新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修		
開催日時	令和5年1月16日(火)	時間	9:00～16:00
受講者数	受講者 8名(会員2名 非会員6名)		定員 30名
ねらい	新型コロナウイルス感染症等の新興・再新興感染症の拡大といった健康危機発生時に備え、IHEAT要員に対して保健所などにおいて支援する業務の実施方法や感染症に関する科学的知見に基づいた知識や技術の習得を図り、IHEAT要員による支援体制を整備することを目的としている。また、登録者以外にも(保健師、看護師等)研修を実施し、応援派遣体制の強化を図ることを目的としている。		
講師	医療法人白菊会白菊園病院 感染管理認定看護師 森田 安世 高知市保健所地域保健課副参事地域保健・人材育成担当管理主幹事務取扱 小原 牧 高知市保健所地域保健課結核・感染症担当係長 山崎 真妃 高知県衛生環境研究所保健科学係長 松本 一繁 高知県立大学看護学部 助教 高橋 真紀子(体験者談)		
内容	感染症の基本的知識と予防対策や保健所における新型コロナウイルス感染症対応の実際(事例演習含む)、疫学的調査やPPE装着方法		講義・演習

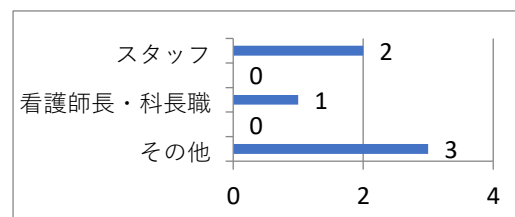
受講者: 8名 アンケート回収: 7名 アンケート回収率 87.5%

I. アンケート結果

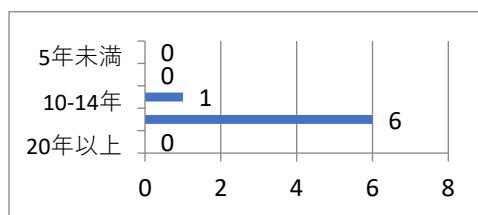
1 職名



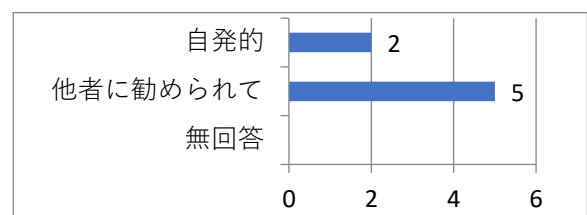
2 所属



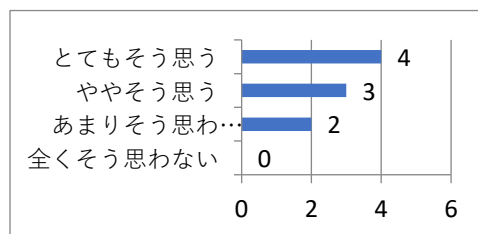
3 経験年数



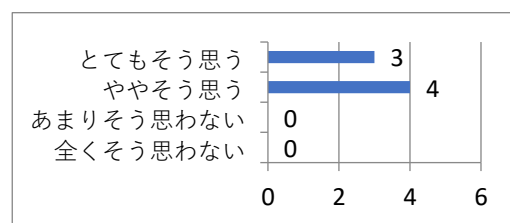
4 参加の動機



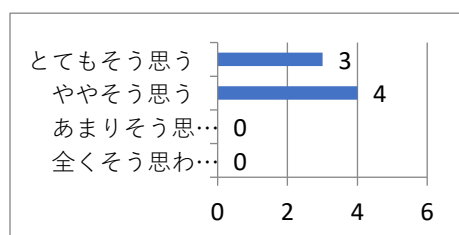
5 研修内容の理解度



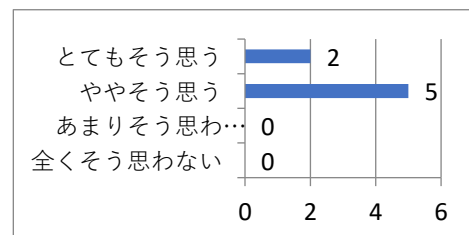
6 参加目的の達成度



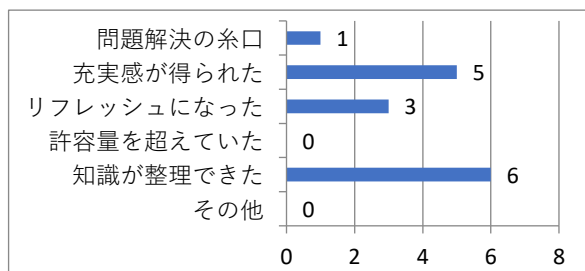
7 今後の活動に活用できるか



8 課題、方向性の明確化ができたか



9 研修の講義全体を通した感想(複数回答可)



II. 研修全体を通した感想

- ・感染症に特化した看護師がいる施設もあるが、医師のいない施設のコロナ対応の大変さを昨年聞きました。その後 5 類になってからの状態や工夫、改善点なども知る機会があればよいと思います。
- ・疫学的調査の対応は、ケースバイケースであるが、「訓練」という視点で事例を重ねていくしかないように思います。
- ・看護師、保健師と現場での業務は分かれると思うが、それぞれの分野の感染症支援について知っておくことは大事だと思う。
- ・施設での感染対策では認知症の患者さんもおられ、感染対策も一言では言えないだろうと思いました。その大変さを聞きたかった。
- ・感染者ベッドのゾーニングをもう少しゆっくり聞きたかった。
- ・積極的疫学調査をする中で、言葉だけのコミュニケーションでは難しいと感じた。
- ・PPE の演習は、振り返りにもなったし、防護服の着脱方法が体験できて、しんどさや解除の方法が実践でき良かった。
- ・感染経路別予防策では、疾患による経路を理解することや行動に移せることが大切だと思った。時々、このような研修が必要だし、実際に感染発生時のシミュレーション訓練が必要だと思った。
- ・ロールプレイでは、限られた情報からいかに対象者と関わるかテクニックが必要だと思った。クラスターの特定や家庭内での感染防止なども伝えていくコミュニケーションスキルの向上が必要だと思った。
- ・PPE 着脱手順では、自分を守ることや感染拡大防止をすることを意識して安全な着脱をする必要があり、定期的な訓練が必要だと思った。
- ・積極的疫学調査では、多人数や様々な性格の人に対して聞き取りをすることになる。言葉の選択の難しさや調査対象者からの信頼を得ることの難しさなど大変な業務であると思った。
- ・PPE 着脱訓練では、フル装備を体験でき楽しかった。当時は、防護具が足りない状況であったため、物品の使い捨てはもったいないと思ったが勉強になった。

III. 担当者コメント

主に IHEAT 要員対象の研修であるが、未登録者の参加も推奨しており、今後の登録要員増加のためにも参加者増加につなげる方法を考えていくことが課題である。また、研修内容は、主に住民から感染症の知識や対策をどのようにすればよいのかなどの相談に対応できる知識・技術の習得を考えたものにするとなお良いと思った。